

制と呼ばれる]。さらに、全国の土地を測量して徴税する制度を導入し、中央集権的な統治機構をととのえ、また首都を⑧.....に移した。

15～16世紀のインド社会では、イスラーム教と⑨.....教との融合をはかる信仰が盛んとなった。そのなかで、不可触民への差別を批判し、人類が根本的に一つであることを説いた⑩.....や、愛と献身により神とともに生きることでカーストの区別なく解脱できると説き、⑪.....教の祖となった⑫.....が登場した。

こうした背景のもとで、⑥.....も、信仰と統治の両面でヒンドゥー教徒とイスラーム教徒の融合をはかり、支配の基盤を固めようとした。彼はみずからヒンドゥー教徒の女性と結婚し、非イスラーム教徒に課されていた⑬.....(ジズヤ)を廃止して、ヒンドゥー勢力を味方につけた。

文化面でも融合への積極的な動きがみられた。ムガル宮廷にはイラン出身者やインド各地から画家がまねかれ、⑭.....が多数うみだされた。各地の王の宮廷では、地方語による作品がうみだされると同時に、それらの作品のペルシア語への翻訳がすすんだ。公用語の⑮.....語がインドの地方語とまざった⑯.....語も誕生した[現在パキスタンの国語となっている]。また、建築においても、インド様式とイスラーム様式が融合した⑰.....などの壮大な建築が現在に残された。

デカン高原には、14世紀に⑱.....王国が誕生した。この王国はインド洋交易をつうじて西アジアから馬を大量に入手して軍事力を高め、南インドに支配を拡大した。しかし、イスラーム勢力との抗争によって17世紀にはいと衰退し、その後、南インド各地で地方勢力の自立化がすすんだ。

2. 内容をまとめよう。

① ムガル帝国の成立とインド=イスラーム文化の開花

整理



- a.....
- b.....
- c.....
- d.....

	(1)ムガル帝国の成立
1	a (1)の子孫(2)が、カーブルを本拠に北インドに進出
2	b (3)の戦い(1526)で(4)朝を破る→ムガル帝国の基礎
3	(2)第3代皇帝アクバル(在位1556~1605)…実質的な建設者
4	a (5)制で支配階層を組織化…維持すべき騎兵・騎馬数とそれに応じた給与
5	によって等級づけ、官位を与える
	b 全国の土地を測量して徴税する制度を導入、中央集権的統治機構をととのえる
6	c 首都を(6)に移す
	(3)イスラーム教とヒンドゥー教の融合…15~16世紀に盛んとなる
7	a (7)…不可触民への差別を批判し、人類が根本的に一つであると説く
8	b (8)…カーストの区別なく解脱できると説き、(9)教の祖となる
9	c アクバルの姿勢…信仰と統治の両面で融合をはかる
	┌ ヒンドゥー教徒の女性と結婚
10	└ 非イスラーム教徒に課されていた(10)を廃止
	(4)インド=イスラーム文化…イスラーム文化とヒンドゥー文化の融合
11	a 絵画…宮廷にイラン出身者、インド各地の画家→(11)が多数うみだされる
12	b 言語…公用語のペルシア語が地方語とまざった(12)語が誕生
13	→現在の(13)の国語
	c 建築…インド様式とイスラーム様式の融合
14	→皇帝シャー=ジャハーンが妃の墓廟として(14)造営
15	(5)南部の状況…(15)王国の盛衰
16	a 14世紀、(16)高原に成立→インド洋交易で軍勢力強化、南インドに支配を
	拡大
	b 17世紀、イスラーム勢力との抗争で衰退→南インド各地で地方勢力が自立化

□インド地方勢力の台頭 (教科書 P.199)

1. 空欄を埋めながら教科書を読んでみよう。

インド地方勢力の台頭
 ムガル帝国は、第6代皇帝① _____ の時代に最大の領土となった。しかし、その治世は支配の弱体化がすすんだ時代でもあった。ムガル支配層は、地租の徴収を強化しただけで、農村や都市で展開していた活発な商品生産には積極的に関わらなかった。また、イスラーム教に深く帰依したアウラングゼーブは、ヒンドゥー教寺院の破壊を命じ、あるいは② _____ を復活するなど、ヒンドゥー教徒を圧迫して反発をまねいた。

こうした情勢のなかで、各地で農民反乱が生じ、また地方勢力が着実に力をつけて独立への動きを示した。西インドではヒンドゥー国家の建設をめざす③ _____ 王国が登場し、西北インドではシク教徒が反乱をおこして強大化した。18世紀初めにアウラングゼーブが死ぬと、ムガル帝国はたちまち解体に向かい、ベンガルやデカンをはじめとして、各地に独立政権がうまれた。

2. 内容をまとめよう。

② インド地方勢力の台頭	
(1) 第6代皇帝(17) (在位1658~1707) … イスラーム教に深く帰依 a 領土は最大に、しかし支配の弱体化がすすんだ時代 b ムガル支配層は地租徴収を強化したが、商品生産には関わらず c (18) 寺院を破壊、人頭税を復活するなどヒンドゥー教徒迫害	17 18
(2) 地方勢力の動き … 独立への動きを示す a 西インド … ヒンドゥー国家の建設をめざす(19) 王国が登場 b 西北インド … (20) 教徒が反乱をおこして強大化 c (17) 帝の死後、(21) 地方やデカン地方などに独立政権が成立	19 20 21

□ 東南アジア交易の発展 (教科書 P.199)

1. 空欄を埋めながら教科書を読んでみよう。

東南アジア地域では、16世紀にはいってヨーロッパの諸勢力があらたに進出しはじめた。① _____

_____ 王国は1511年に優勢な海軍力をもつ② _____ に占領され、王はその後拠点^{きょてん}を転々と移動させた。他方、強権^{きやうけん}的な貿易管理体制をとる③ _____ に対して、ムスリム商人たちは拠点を移動させて対抗し、アチェ王国や④ _____ 王国などの諸港^{しゆかう}があらたな交易中心地として発展した。また大陸部では、タイの⑤ _____ 朝やビルマの⑥ _____ 朝などが、米^{こめ}や鹿皮^{しかがわ}をはじめとする特産物交易により繁栄を続けた。

ポルトガルにつづいて東南アジアに進出したのは、スペインであった。スペインは16世紀後半からフィリピンへの侵略を開始し、⑦ _____ に根拠地^{こんきょち}をおいて交易と支配をおこなった。スペイン支配下のアメリカ大陸で大量の金・銀が生産されるなか、マニラはメキシコの⑧ _____ と⑨ _____ 船によって太平洋をこえて結ばれた。マニラは中国をはじめとする南シナ海諸地域とアメリカ大陸とのあいだの重要な中継拠点となり、ここからアカプルコへは中国産^{ちゆうごく}の絹や陶磁器^{とうじき}、インド産綿布^{めんぷ}などが、アカプルコからは大量の⑩ _____ がそれぞれ運ばれた。⑪ _____ は、日本銀とともに、ポルトガルが拠点をおく⑫ _____ などを經由して中国に流入することとなり、海上交易は盛んになった。

16世紀末以降、日本は⑬ _____ 船を盛んにフィリピン・ベトナム・タイなどに来航させたこともあって、東南アジアの交易活動はさらに活発化した。またオランダやイギリスなどの国々も、⑭ _____ などの特産物がヨーロッパにおいて大きな需要^{じゅよう}があったため、⑮ _____ を設立して交易活動に参加しはじめた。オランダとイギリスはたがいに競争しながら、ポルトガルやスペインをおさえ、東南アジアからインドに勢力をのばしていった。